

戦史課

系原 様

27.12.12

復興局復興課 有

陸軍

関東軍衛生材料廠に就て

関東軍衛生材料廠

(1) 所在地 滿州国奉天市十港屯

敷地 約四十万坪

有

機能及設備 衛生材料の製造、補給並に貯蔵  
(1) 製薬工場(一部廠内) 約二、〇〇〇坪以上

食塩注射液、ブドウ糖、ビタミンB液其の他の製造を実施す  
又各種錠劑(健胃錠、食塩錠、重曹錠、ビタミン錠、クレオ  
ソート丸其の他の)の製造も実施した。

(2) 其の他奉天地域民間各製薬工場にて年間製造計畫に依り発注製  
造し、部隊倉庫に貯蔵格納した。之の衛生材料を全滿各陸軍病院  
院、野戦賣物廠(関東軍及中北支軍)及び在滿各部隊に補給し  
た。

(3) 事務所(一部廠本部) 約一、〇〇〇坪

修理工場 約二、〇〇〇坪

倉庫 大、小 約四〇棟

## (2) 出張所

大連出張所

關東州大連市元曉軍倉庫内

衛生材料貯蔵及大連、旅順砲軍病院に対する材料の補給

朝鮮鐵道出張所

朝鮮咸鏡北道

衛生材料の貯蔵及内地との中継業務

吉林省下孔台分散集積所

倉庫に約六棟衛生材料分散貯蔵す

(3) 衛生材料中器械、藥物、消耗品は大小約四十棟の倉庫に格納貯蔵せられ、關東軍五ヶ年分程度の衛生材料が貯蔵せられてあつた。ソ連軍進駐後全材料をソ連本國へ運搬せられた。

4 人員

軍人（幹部）約二〇名

警備兵約四〇名

軍醫

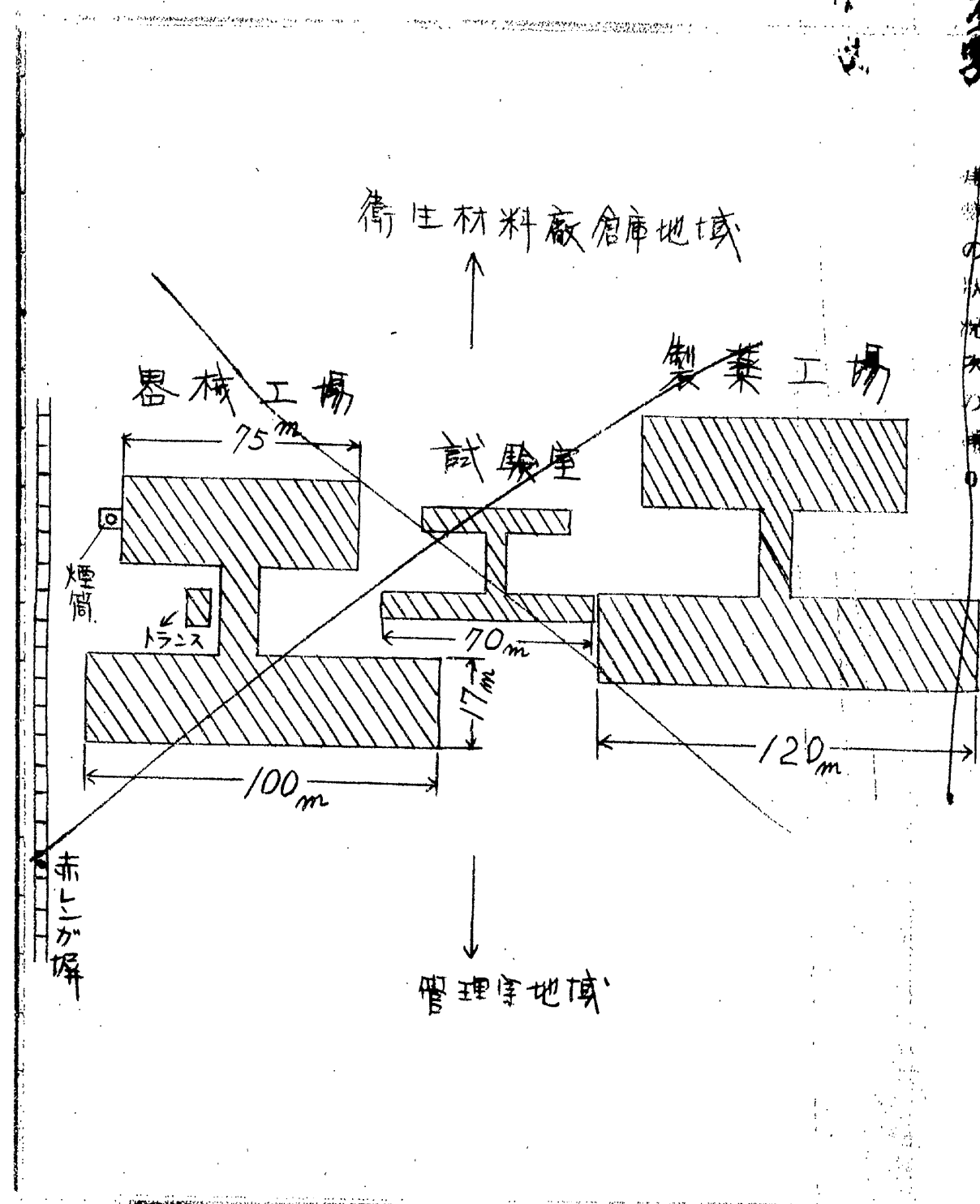
約三〇〇名

（内女子半數）

南人勞務者

約五〇〇名

5) 地と目標は奉天駅より西約八軒に當り衛生材料廠裏に鐵道線路あり、線路西が南軍飛行学校である。一戦時中之の空軍基地が蘭花特攻隊の基地であつた。ソ連進駐と同時にソ連空軍が之を基地と



工事

右記試験室及事務室に工具、測定機等を収納しあり  
建物の状況次の通り

- 建坪面積 約一、〇〇〇平方米
- コンクリート線あり
- 衛生材料製造部器械工場の補助次の通り
- (1) 所在地 奉天市鉄西区中心街
- (2) 機能 國庫庫に於ける衛生材料器具、器械の修理を目的とし製造の一部を実施すべく設備しあり
- (3) 設備
  - 工作機械室及倉庫
  - 鍛冶室及事務室
  - 精密機械室
  - エンジン試験室及電気室
  - 自動車修理室
  - 鑄造室及鍛工室
  - 硝子細工室及木工室
  - 縫工室及縫製室

陸軍

2117

別紙第五

奉天陸軍衛生材料支廠の概況

陸軍

1580

有  
限  
公  
司

## 別紙第六

## 奉天陸軍獣医資材支廠の概況

(一)所在地

本廠

奉天市鉄西区

支廠

大石橋

大石橋駅西南方中隊隊跡

大連

大連市南東倉庫大連支庫跡

(二)機能及設備の概況

本廠

蹄鉄製造器

新式のもの

六連

(一連の能力蹄鉄三〇個五〇頭分  
と一八時間にて製造する)

旧式のもの

二連

蹄釘製造器

新式のもの

八連

(何れも一連二〇〇〇本)

旧式のもの

六連

鉄蹄製造器

新式のもの

八連

(一連の能力一、二〇〇個)

旧式のもの

二連

(一連の能力四〇〇個)

<p>獸医資材修理工場 鍛造 研磨 鍍金等の設備がある</p>	<p>蹄油工場 不凍、普通蹄油製造設備各一</p>	<p>満馬蹄鉄工場 子口 六四 手製工場</p>	<p>倉庫 二棟</p>	<p>支廠</p>	<p>大石橋 蹄鉄製造場 二連</p>	<p>蹄釘 三連</p>	<p>倉庫 六棟</p>	<p>倉庫 四棟</p>	<p>大連</p>	<p>三保町資材、 馬匹三六万頭に対する二會戰分の獸医資材と二年分の補給用 資材</p>
---------------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------	-----------	---------------------	--------------	--------------	--------------	-----------	--

(東京 G.N)

有田 明

## 航空機関係

## 一 関東軍航空廠本部

所在地 奉天市鉄西区

## 二 業務内容

関東軍隷下各航空廠部隊の航空機の補給、修理、整備並に航空機部品の製作納入、受領を実施し尙物資の統制及管理工場の監督を実施す。

管理工場の主なるもの次の通りである

満州飛行機株式会社

終戦直前迄の月産能力は戦斗練習機一八〇機程度である

## 三 連山関分廠

所在地 本溪県連山関村

設備 事務室 平屋瓦屋根

八〇坪

倉庫

三四〇坪

作業場

三三三坪

工員宿舎

三四〇坪

工場設備としては工作機械一六〇坪 作業人員二三〇名

陸軍

業務内容は航空機部品の製作

目標 安奉線より約二〇米西側にあり連山関駅より約一、五軒の所にある。

#### 鉄嶺分廠

連京線平頂堡及亂石山に倉庫を有し主として航空機、燃料、弾薬の保管、出納、調製を実施す。

#### 大連分廠

旅順市に在りて主として航空燃料（海上輸送で来るもの）の受領、保管、出納、調製を実施す。

#### 錦州分廠

奉山線錦県に在り主として技術工員の養成に従事し航空機部品の製作を実施す。

以上の外公主嶺、白城子、ハルビンに各出張所を有し各滿州飛行機株式會社、滿州航空株式會社兩社の自作機の受領、整備に任ず。

以上の外参考事項として

ノ大連分廠が監督の立場として海上輸送燃料のタンカーより陸上タンクへの受領業務は滿州石油株式會社が直接実施しあり、大連港



## 大連軍航空廠瀋陽支廠

所在地 奉天市鉄西区

(3) 建築物 航空機の補給、修理及び部下管理工場の監督をなす  
 事務室 (二階建) 六〇〇坪 一棟

倉庫 (部品倉庫) 七〇〇坪 二棟あり

器材倉庫 一、五〇〇坪 五棟あり

格納庫 二、五〇〇坪 五棟位あり

作業場 (飛行機整備工場) 六〇〇坪 三棟

機械部品工場 六〇〇坪

機物調製工場 二〇〇坪

板金工場 二〇〇坪

飛行機修理組立工場 五〇〇坪

発動機修理組立工場 三〇〇坪

電気精器工場 三〇〇坪

木工場 二〇〇坪

化学機械工場 二〇〇坪

向外に隣接飛行場中央に回廊瀋陽大学あり総建坪数一、〇〇〇坪

陸軍

一二階建にして格納庫二〇〇坪位のものが数棟あり  
 又鉄西区西方郊外楊家荒村姚家屯には旧滿州国軍飛行学校、飛行  
 場に隣接して派遣所あり事務室一〇坪、倉庫二、二〇〇坪、十一  
 棟、格納庫一、八〇〇坪、六棟、作業場は整備工場三〇〇坪あつ  
 たが終戦後暴徒により相当破壊せられた  
 作業人員 本廠に於ては約二、五〇〇名  
 地上目標 奉天駅と鉄道線路にて奉天駅より約三杆の位置にありて  
 その線路に隣接している

頃等兒溝及び甘井子の兩埠頭にタンク（四、〇〇〇乃至一〇、  
 〇〇〇軒）四基乃至五基を有しあり  
 大連及び鉄嶺の兩分廠には地下タンク（五〇〇乃至一、〇〇〇  
 墩基を有し尙北滿亞溝、榆樹屯にも地下タンク概ね同数の地下  
 ンクを保有し有り

陸軍

1587

東京小冊

1588

**国立公文書館 アジア歴史資料センター**

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

2125

別紙第七

陸軍航空廠満洲支廠の概況

陸軍

(紅丸光岡田製)

1589

有田 四  
關東軍兵器補給廠

／ 任 務

關東軍兵器補給廠本廠は主として關東軍に対する兵器（航空關係を除く）補給のため日本国内兵器行政本部直轄の在滿補給機關として南滿州各要點に分廠を置し其の本部を奉天に位置したる補給廠である。従つて總予備的性格を有し平時に於ける個々の補給を本来の任務とはしない。又關東軍の有する野戰兵器廠以て軍司令部の実施していた在滿工業の培養育成以て工場管理等は全く軍に於て行ひ本廠は之等に關れていなかった。

關東軍の必要とする兵器資材は關東軍兵器部（軍司令部内の一部署）から日本国内の兵器行政本部に請求し必要に応じて兵器行政本部は關東軍兵器補給廠に其の補給を命じ補給された。場合によつては内地より直送する場合が有つたが原則としては本廠を産出して補給する様にしてあつた。

一九四四年から一九四五年に於ける作業

陸 軍

當時は在備各部隊は南方転進の爲漸次減少の時機にあつたので兵  
 器の備給は殆んど無く本廠は收容兵器を爆撃の被害から如何にし  
 て之を避けるべきかを苦心し分収疎開作業等に殆んど任じていた  
 関東軍兵器備給廠本廠館に各分廠の收容兵器、敷地、倉庫、工場等  
 の状況別表の通りである

設 区 分	主要收容兵器資材	敷地(坪)	倉庫(火薬庫を含む)	工場(坪)	事務室(坪)	従業員(名)
関東軍兵器補給廠 本廠 (奉天)	彈藥、渡河器材を除く一般兵器、航空兵器、各種原料材	九七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、五〇〇	二〇〇	五〇〇
関東軍兵器補給廠 公主嶺分廠	機械化車輦及び兵器器材	八〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五〇〇	一〇〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 四平分廠	爆薬資材及び各種彈藥	一〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	五〇〇	五〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 鉄嶺分廠	渡河器材及び通信器材	五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 文官中分廠	機械化車輦及び燃料	四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	一〇〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 撫順礦業所	各種彈藥の填装作業担任	一五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 遼陽分廠	機械化車輦及び工具一般器材	五五、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 營口分廠	燃料及び各種油	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	五〇	八〇
関東軍兵器補給廠 大石嶺分廠	彈藥の一部及び燃料	二五、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 大連周水子分廠	彈藥及び自動車以外の車輛	二五、〇〇〇	八、〇〇〇	五〇〇	五〇	一〇〇
関東軍兵器補給廠 旅順分廠	彈藥及び各種彈藥	八、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五〇	一〇〇
備考	1 大連、安東及び朝鮮縦断に亘る補給業務所を受け一〇名程度以上の事務員を置く。 2 右の従業員中には朝鮮人を含む。 3 尚従業員の外に臨時雇入(朝鮮人、南州人)を相当人数入れている。					

東京小津藩

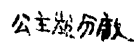
陸軍



庚東軍兵器補給廠

本廠並に分廠其の他の所在地

調查表



駅の西北の料の  
位置にあり.

回新京

公主旗

平

四平分教

四甲驛より東北方約料の  
地奥の丘の間に在す。

### 文體分類

時々の東方材料

鉄

明倫彙編

駅より東方500mに在り

10



天奉

奉天城壁の東方と料にあり

・推轂の西方30料奉天に  
通ずる遊路の北方山南に在る。

羅南派公所

遺失

1924

馬氏の東北方1.4km

石菴

1777

本工 錄 全 卷

大石橋の東南10km  
の山麓にあり.

店

廣東書局

山口分廠  
取、北方一軒

大連市南关

周水の駅より大連に通ずる  
道の東側

Y 朱  
土 野

喉症

旅順白玉山の東側旧要塞  
の遺物を利用す。

1593

2130

2131

別紙第八

南滿陸軍兵器補給廠の概況

兵器補給廠

陸軍

(1940年)

1594

有り

## 別紙第九

## 四平陸軍燃料廠の概況

一 所在地 奉天省四平市

二 製造品目及数量(月産)

航空揮発油 六〇〇升

自動車用 九〇〇升

アルコール 九〇〇升

三 作業員係労働者数

日本人 五〇〇人

満洲人 五五〇人

四 作業の状況

試運転未済のものもありて能力通りは生産しおらず

五 錦西製所の状況

一 所在地 錦州省錦西

(2) 製造品目及数量	航空揮発油	八〇〇升
自動車用	二、八〇〇升	一、三〇〇升
灯油	四、五〇〇升	重油
(3) 設備の状況	連続蒸餾装置	分解蒸餾装置
連続洗糸装置	石炭低温軽餾装置	タール蒸餾装置
無水アルコール製造装置	貯蔵 倉庫設備	潤滑油製造装置
敷地 約三〇〇万坪		

(東京 G.N)

1596

(一) 滿洲軍需産業の概況 綏蒙定當時(一九四二年)に於ける軍需

工場別紙第一の如くである

(二) 一般兵器工業

(1) 一般兵器を直接製造する第一種工場中主要なるもの、製品の数量等別紙第二の如くである

(2) 兵器製造の基礎である製鉄に關しては昭和製鋼所、本溪湖、煉鉄公司等がある 細部別紙第三の如くである

(3) 自動車製造工場として同和自動車工業株式会社を設立し自動車等の製造販売を一貫企業として担当した

(4) 工作機械製造工場としては一九三九年滿洲工作機械株式会社を設立し工作機械の製造販売を充たした 尚事業にはないが滿洲ローレル、政記鉄工廠、大陸鉄工所等がある

(5) 兵器工業には直接関係がなまな冷の如きものは兵器工業に準じ重要である

(1) 車輛製造業として満鉄沙河工場があり其下請として大連機械及滿洲車輛合社がある其他大連船渠滿洲工廠奉天造兵所車輛の修理製造と兼ねてゐる

造船業として大連船渠鐵工が最大で此の外大連抚顺及ハルビンを中心とした松花江岸には小規模なから船舶修理工場及木造船建造工場十余社がある

### (三) 航空兵器工業

一九三九年満洲飛行機株式会社が設立され日本の技術、資材の支援により飛行機の製造組立、修理等を実施した

### (四) 被服関係工業

(1) 満洲に於ける繊維工業の概要別紙第四の如くである

(2) 被服関係工業は日本が非常に発達しており且満洲の民衆大なるを以て満洲内自給自足と同様となるも軍需として取得し得るものは特殊なるものに限定せられ現地取得は困難である

### (五) 糧秣関係工業

(1) 製粉工業 満洲國建設と共に製粉工業も新生面を展開し

一九三七年三〇〇万袋 一九三九年には七〇〇万袋を必要とするに至り

製粉工業も生産地の北滿特にハルビンに著しく発達をした

小麦製粉能力別紙第五の如くである

(2) 製糖業 満洲建國以前より阿什河製糖廠、及南滿製

糖があつたが何れも閉鎖の已おなきに至つた

(3) 味噌醬油醸造業 日本酒、麥酒醸造業等は日本人の満洲

移住と共に發達し、特に軍の兵力増大と共に發達して来た

(4) 糯米業 米の主要地は北滿では牡丹江一面、坡ハルビン、ハル

南滿では吉林、北平、開原、鉄嶺、奉天等、糯米業も自ら夫

等の地区に工場を建設<sup>して</sup>行はれた 日本軍の國境近々に在る補

給廠は多量の米を玄米で保有したるを以て精搗機を整

備した

(5) 大豆工業 満洲農産物の大宗である大豆を原料とする油房工

業は第一次歐洲大戰後飛躍的に發達し一九三四年には豆粕六、七千

万枚を生産したが満洲事変後三分の一に激減した、又大豆化学工業として

カゼインを製造して代用品衣服等を作る爲大豆化学工業会社と一九四四年設立した



(六) 衛生材料関係工業

各種薬品の製造工場として、満洲武田製薬及塩野義薬品等があり、衛生材料用器具、器械等は満洲富士綿、小高鉄工所等が製造と担当してゐた。

(七) 獣医資材関係工業

(一) 支那馬蹄鉄製造工場

ハルビン、特素、吉林、奉天、大連等主要都市に小規模の工場があり、平時の需要を充足してゐた。

満洲日馬政局の蹄鉄工場（蘇家屯）

蹄鉄蹄釘 月産 二万頭分

(二) 獣医資材製造工場

奉天 武田薬品

獣医薬品製造

富士綿工場

カーゼ、脱脂綿等、衛生材料

富士工業所	満洲皮革工場	油脂工場	工作所	豚先工場	撫順 <sup>満</sup> 鉄製鉄工場	鞍山 満洲製鉄工場	液体燃料工業
獣医署材	獣医皮革	蹄油	獣医資材	刷毛、毛、毛等	蹄釘、鉄蹄、原料 (一九三四年)	蹄鉄原料(一九三四年)	

従来満洲には一滴の石油もなく満洲建國前には需要の全部を対外輸入に仰ぎつゝあったが一九三四年満洲石油の發見を契機として撫順其他の石炭液化等が着々成功を見急速に發達した

(1) 満洲石油株式会社 (大連市甘井子) 資本金四千万円

主な作業 石油の常圧蒸餾、分解蒸餾、接觸分解並以上の精製

(東京 G.N)

<p>主な製品 航空及自動車揮発油、灯油、軽油、重油、各種潤滑油、 ハコフイ等</p>	<p>尚製油能力の六ヶ月分の原油貯蔵の義務を課せられた</p>	<p>(2) 満洲合成燃料 錦州工場（錦州市西方）資本金一億円</p>	<p>主な事業 阜新炭田の石炭を原料としフィーズラー法を基礎とし 石炭をガス化し重合し重合揮発油を製造する</p>	<p>主な製品 合成揮発油 四シリンダー</p>	<p>主要機械はドイツ製で一九四五年六月試運転を開始した</p>	<p>(3) 満洲人造石油 撫順工場（撫順）</p>	<p>主な事業 石炭の高温圧水素添加による液化並石油（灯油、 軽油、重油）の水素添加による航空揮発油の製造</p>	<p>能力 月産 六〇〇千</p>	<p>(4) 満洲人造石油 吉林工場（吉林） 資本金一億円</p>
---	---------------------------------	-------------------------------------	---	--------------------------	----------------------------------	----------------------------	---	-------------------	-----------------------------------

<p>元吉林人造石油と稱せられたが経営不振の爲撫順の満洲人造石油会社と合併された。初の計画は石炭を乾溜して（ルル式）取水たタールを水素添加して揮発油を製造する予定であったが建設が遅れ一九四二年に乾溜を少々操業した。</p>
<p>主たる製造 月産 低温タール 四〇〇セ ブタール 四〇〇セ</p>
<p>(5) 満洲電気化学工業株式会社（吉林） 資本金 三億円</p> <p>主たる作業 石炭と石灰石と重曹の電力等を主原料として</p> <p>カーバイド 人造ゴム 石灰窒素等 合成樹脂 醋酸等</p> <p>アセトン等を生産せんとするものであった</p>
<p>製造状況は不明</p>
<p>(6) 南滿鉄業株式会社（大石橋より東ニ〇科）</p> <p>主な製品 耐火セメント、耐火レンガ</p>

(東京 G.N)

1604

工場の東方にマグネシヤ鉱山を採る。磁石は工場に運び込み  
 焙焼して耐火セメントを製造する。一九四三年新たにトンネル窯  
 を築いたので此の燃料ガスを製造する為高田式乾溜爐を建  
 設し石炭より良質のガスと低温タービンコークを製造する事に  
 なつていたが一九四四年試運転を中止した。

(7) 満洲石炭液化研究所 (奉天市鉄西区)

主要業務 石炭液化の研究並に中規模工業試験をしてゐた。

(8) 其他

(1) 満鉄撫順炭砒東、西製油所 (撫順)

頁岩油の採取精製 月産能力 二〇〇、〇〇〇ㇼ

東製油所 年産 一九〇、〇〇〇ㇼ

西製油所 年産 三〇〇、〇〇〇ㇼ

(2) 満洲化学株式会社 (大連市甘井子)

硫安及多種類の化学工業製品肥料等を製造してゐた

ハルビン、ハルビン大同酒精株式会社

主として酒精の製造

ハ) 盤石頁岩工場、吉林奉天の中間の盤石より東方山奥の小工場

主として頁岩油の採取をしてゐた

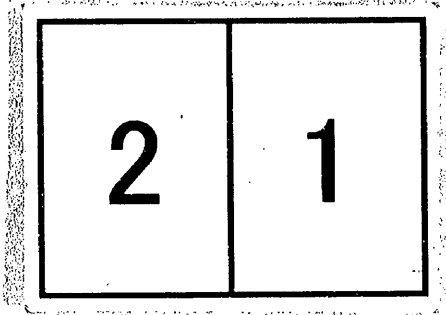
ハ) 盤石頁岩油 錦西工場

主たる製品 大豆油(月産)一、〇〇〇トン

ハ) 満鉄奉天製油工場(奉天)

主たる製品 気象用油(月産)三、〇〇〇トン

## 分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	満洲軍需産業指導要綱第一 当時の軍需工場
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

別紙第一

満洲軍需事業場主要領綱第壹号の軍需工場

日付	工場名	位置	第一種	第二種	第三種
	奉天造兵所	奉天		満洲工作機械	奉天
	満洲三菱機器	"		" 住友金属工業	"
	" 光學工業	"		同和自動車工業	"
	満洲工業	"		昭和製綱所	鞍山
	" 通信機	"		本溪湖製鉄公司	本溪湖
	大和染物	"		満洲ペリテラ製造	瓦房店
	昭和工機	"		" 火柴工業	"
	富士電気工業	"		東洋タイヤ工業	"
	満洲湯浅電池	"		千葉工作所	八戸
	満洲乾電池	"		満洲鋼機	奉天
	本溪湖特殊鋼	本溪湖		" 理化学工業	"
	大連機械製作所	大連		" 岩城硝子	"
	満鉄機軸鐵工場	撫順		日滿鐵工	"
				奉天酸鹼製造公司	"
				若手製作所	大連
				大華鋅業	"
				満洲化学工業	"
				" 曹達	"
	満洲飛機製造	奉天		満洲造船	奉天
	口車電気奉天工場	"		" 官田製作所	"
	日清製油	大連		昭和工業	"
				昭和航器	"
				アパーム	遼陽
	満洲毛織	奉天		満洲綜合工業	奉天
	満洲皮革	"		満洲染織	"
	東亜製靴	"		満洲縫製	"
				満洲日産	"
				奉天工業	"
				官島印刷用	"
				満洲印刷	"
				" 紡績	"
				" 織物	"
				管内中紡績	"
				新島化学	"
				内外綿 金州工場	"
				大連製糖	"
				" 工業	"
				島屋商店	"
	満洲明治製菓	奉天		満洲野田製粉	"
	パリス奉天工場	"		" 食品	"
	奉天製菓	"		奉天製菓工場	"

(東京 G.N.)

1608 1607



[illegible]

別紙第二

一般兵器工業関係工場別兵器製品及数量		
(1) 奉天造兵所 (奉天市大东区长里街)		
製品名	99式小銃	5,100 (17臺)
	92式重機関銃	58
	99式輕機関銃	141
	94式37 <sup>m</sup> 砲	5
	7 <sup>c</sup> 臼射砲	2
	対戦車砲	5
	歩兵砲	15
	実包 (普通)	500 万発
	C型煙薬	20
	中型爆弾銃	5,000
(2) 満洲光学株式会社 (奉天市鉄西)		

1609

2146

製造品目	93式野戦輕測速機	1
	93式砲隊鏡	100
	134式双眼鏡	1200
(3) 満洲三菱機器株式会社 (奉天市鉄西)		
製造品目	99式中戦車	25
	其他各種 鋸山用、鋸金剛用 化学用 機械	
(4) 大連機械株式会社 (大連市台山市)		
製品	98式 6 <sup>0</sup> 牽引車	6
	其他客車、貨車、機関車部品	
	鉄道線路 信号用具	
(5) 満洲通信機株式会社 (奉天鉄西)		
製品	94式 3号甲無線機	80
	副受信機	15

	94式 5号 無線機	110
	" 6号 "	10
	車輛 無線機	10
	其他各種電話機 交換器 真空管等	
(6) 富士電機株式会社 (奉天市鉄西)		
製品	94式 3号 無線機	50
	" 5号 "	80
	" 3号 兩 "	5
	車輛無線機 直流変圧機	5
	20回線 交換機	15
	10回線 交換機	10
	其他誘導伝動機 直流発電機 電話機 交換機等	
(7) 滿洲東京電機株式会社 (新京市和順区)		

其他 送受信器 真空管等

1612

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

2149

## 別紙第三

昭和製鋼所及本溪湖煤鉄公司の概況

## 一 昭和製鋼所

一九一七年満鉄が鉄鉄百万屯を目標に鞍山製鉄所の建設に着手  
 欧州戦争の爲計画を中止、魚鱗処理法の研究に没頭してゐたが

一九二一年鞍山式磁化還元焙焼法を完成、一九二六年操業開始

一九三三年昭和製鋼所を設立、一九三五年鉄鋼一重作業を実現し

爾来日滿製鋼事業一元化に伴ひ増産計画に伴ひ、事業の拡大強

化を図つた

## 二 本溪湖煤鉄公司

一九一〇年の創立が爾来三十年の歴史を有してゐる

事業の内容は次の通り

一 石炭 埋蔵量 三億七千万屯 炭層 八層の長二十米

<p>(12) 鉄鉱 附近十ヶ所</p>		<p>(13) 其他より供給を受けるものはマンガネのみ</p>		<p>生産量</p>		<p>石炭</p>		<p>穀炭</p>		<p>鉱石</p>		<p>鉄鉄</p>		<p>鋼塊</p>		<p>鋼材</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>		<p>一九四一年</p>	
<p>五九</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	
<p>一九四一年</p>		<p>二二〇万ト</p>		<p>一〇五万ト</p>		<p>二五万ト</p>		<p>二四万ト</p>		<p>五〇万ト</p>		<p>一七万ト</p>		<p>五七万ト</p>		<p>二五万ト</p>	

(単位: 千ト)

別紙第四

満洲に於ける繊維工業の概要

（一）綿糸布工業

満洲に於ける綿糸布工業は第一次欧州戦後勃興したるより即ち支那産糸棉、印棉、アフリカ棉等の輸入が打撃を受け北支満洲を通じて自給自足と目標とした棉花の増産計画も策定された

（二）在満紡績状況（一九四〇年）

紡機台数

内外綿紡 一〇、八万錠

大 三二七二

臨河紡績 四、九

製糸 三、〇

紡績 七、八

大 一〇四五

管口 五、五

大 一、五二〇  
小 二一〇

奉天紡紗廠 三、〇

大 七五〇

東棉紡績 四、八



茶葉、タバコ、砂糖、八	東洋タイヤ	合計	二) 榨蚕糸工業	満洲の榨蚕糸工業は世界第一であつた。嘗て海城蓋平が盛んであつたが、衰へて安東が盛んで、一九四一年の収穫量は五十億粒である。	満洲榨蚕株式会社が一九三九年設立され、一九四一年の目標は四千万陌。	一四。億粒の増産を計画した。	三) 製麻工業	満洲特産物包装用としての麻袋は夥しい数に上り、一ヶ年の需要量は七〇〇万枚程だが、軍需として相当大量に使用をした。	尚製麻工業が軍需として使用するものは作業服、天幕、大砲の被覆布、担架、飛り機翼布、等がある。
-------------	-------	----	----------	---	-----------------------------------	----------------	---------	--	--

(東京 G.N)

## (四) 毛織工業

毛織工業は未だ十分なる発展を見ず、滿蒙毛織、滿洲毛織、  
股份有限公司、康徳毛織の三社があるだけである

滿蒙毛織は羅紗布製造、滿洲毛織は豚毛馬毛の加工

康徳毛織は羅紗毛布、絨毯を製造してゐる



別紙第五

陸

軍

小麦製粉能力一覧表

地別	工場数	日産能力
新 京	5	34,970 <sup>袋</sup>
奉 天	3	15,967
吉 林	2	5,600
龍 江	8	9,793
遼 江	30	158,793
三 江	10	1,933
牡丹江	5	7,924
錦 州	2	3,800
興 安	2	2,935

1619

2155